

令和4年度 学校評価

四天王寺東高等学校
四天王寺東中学校

目 次

1. めざす学校像	2
2. 中期的目標	2
【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの評価】	3
* 自己評価アンケートの結果と分析	
結果	3
分析	4
1 肯定評価（評価1・評価2）による分析	
2 設問ごとの分析と具体的な改善方法	
* 学校関係者評価委員会からの評価	7
3. 本年度の取り組み内容及び自己評価	8
資料	
①令和4年度 自己評価アンケート 集計結果	9
②過去年度との比較資料	10
③集計結果を分析した資料	11

1. めざす学校像

聖徳太子の仏教精神に基づく情操教育の実践及び教科学習・学校行事・クラブ活動を通して、豊かな人間性を備え、知・徳・体すべてに調和がとれた人物を育成します。また、社会ルールや校則を遵守し、探究型教育やICT教育などに積極的に取り組み、粘り強く努力を重ねて学習に励むことにより、希望する進路を実現し、将来、リーダーとして活躍できる人間力を備えた人物の育成を目指します。

- 目標
1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。

2. 中期的目標

1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 1. 生徒会活動が活発に行われている。
 2. 部活動が活発に行われている。
2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 1. 家庭学習時間の確保に向けた取り組みが行われている。
 2. 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている。
3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 1. 進路説明会は、適切に計画・実施されている。
 2. 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている。
4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。
 1. 遅刻・欠席を少なくさせている。
 2. 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。
5. 学校運営について
 1. 職員の生徒募集の意識高揚が図られている。
 2. 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

*自己評価アンケートの結果と分析（令和5年1月実施）						
番号	設問	結果(%)				番号
		1	2	3	4	
目標1	1 校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	65	31	4	0	1
	2 生徒会活動が活発に行われている	25	51	18	6	2
	3 部活動が活発に行われている	31	56	12	2	3
	4 人権教育が適切に計画・実施されている	18	63	18	2	4
	5 いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている	22	71	8	0	5
	6 仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	47	35	14	4	6
目標2	7 教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	50	35	15	0	7
	8 効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	45	47	8	0	8
	9 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	58	40	2	0	9
	10 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	45	45	6	4	10
	11 教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	35	59	6	0	11
	12 学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	23	60	17	0	12
	13 家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている	12	80	8	0	13
	14 授業で、探究活動を実践したり、ICT（情報通信技術）を活用している	35	56	10	0	14
	15 クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	33	60	8	0	15
目標3	16 生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	53	47	0	0	16
	17 進路説明会は、適切に計画・実施されている	56	42	2	0	17
	18 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	55	43	2	0	18
	19 実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	46	50	2	2	19
目標4	20 校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	16	53	20	10	20
	21 生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	29	43	16	12	21
	22 社会のルールマナーを順守させている	12	65	18	4	22
	23 服装規定を守らせている	8	59	27	6	23
	24 生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	52	46	2	0	24
	25 遅刻・欠席を少なくさせている	10	50	30	10	25
	26 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	12	63	20	4	26
	27 環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	16	70	12	2	27
	28 年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	29	67	4	0	28
学校運営	29 職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	34	48	8	10	29
	30 教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	31	51	12	6	30
	31 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	37	57	6	0	31
	32 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	22	58	20	0	32
	33 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	31	55	12	2	33
	34 防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	51	45	4	0	34
	35 入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	51	45	4	0	35
	36 ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	69	29	2	0	36
	37 個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	57	43	0	0	37
	38 職員の生徒募集の意識高揚が図られている	24	57	12	6	38

*結果の評価：1（よくあてはまる）、2（ややあてはまる）、3（あまりあてはまらない）、4（まったくあてはまらない）

分析		
1	1 評価と2 評価による分析（肯定評価）（資料①、②、③参照） 1 評価と2 評価のパーセントの合計は、平均で87.3%であり、昨年度の86.1%からわずかであるが上昇した。80%を越える高い評価を得た項目は31項目で、昨年度の30項目よりも1項目増加した。また、70%以下の改善の余地がある項目は昨年度の3項目から増減はなかった。全体的には大きな評価の変化はなかったが、項目により評価の上がり下がりが見られる。改善の必要な項目もまだあるので、さらなる取り組みが必要である。	
2	設問ごとの分析と具体的な改善方法 番号 分析	具体的な改善方法
目標1	1 昨年度より数値が上がっているところから、適切に計画、実施されているものと考えられる。	今の現状に甘んじるのではなく、より良いものにすべく今後も企画、立案していきたい。
	2 昨年度の評価からほとんど変化がない。	昨年度は生徒会活動で重点を置いたのは「文化祭」である。生徒会役員は身を粉にして働いてくれたが、実際は裏方が主であり、目に見えて活動をしていただけではないことがこの結果であると考えられる。もちろん「文化祭」を生徒会の生徒が仕切っていくのが理想であるが、今年度においては教員側が「文化祭」を把握するのに精一杯であり、生徒に委託できる幅も狭かった。徐々に生徒自身でできるようにし、その必要な仕事をこなす上で自ら発案したものを実現できるよう、長期的な計画で生徒会活動を行っていくべきである。また、「文化祭」以外にも、自らの「公約」を実現できるような取り組みをするように促していく。
	3 昨年度からみて、改善されたと考えられる。	部員の少ないクラブをどうするか、これからの同好会設立の扱いなど精査していく必要がある。部活動を活発にしたいというのであれば、それ相応の体制や資金面を考えるべきだと思う。学校における「部活動」の位置付けを考えることが必要なのではないか。「部活動を活発にする」という方針で学校を運営するのであれば、外部講師の招聘や給与面での改善が必要不可欠である。評価を上げるのであれば、先生方が「部活動を活発にしたい」と思えるような環境を作らなければいけない。
	4 昨年度と比べて計画通り人権教育は一通り行えたと考えられる。その点では改善されたと考えられる。	各学年のテーマに添った人権教育は行われたが、基本年間に1回の教育活動しか行っていないので、今後は他の行事との兼ね合いもあるが、増やしていくことも検討課題である。
	5 春、秋の2回、心の健康アンケートを実施した。1回目は紙ベースで行ったが、2回目はロイロのアンケート機能を用いスムーズに行えたと考えられる。	実施はできたが、前年度との比較などを加え、さらに内容を検討する必要がある。そうすることで、生徒にとってより適切な心の健康アンケートにしていく。
	6 令和4年度は自己評価1・2は81.6%だった。改善点のご意見としては大半が礼拝等がコロナ禍で人数・時間の制限のため、読経と保護者への感謝の礼だけで終えることが多く、意義が十分ではない等だった。	令和5年度からは礼拝等も本来の次第通りに修行したり、徐々にその他の仏教行事も元の形に戻していけるのではないかと期待している。その中で仮に縮小・中止になったとしても意義が生徒、教員双方が理解できるよう、心を尽くして説明していきたい。
目標2	7 前年度から-11.1%である。高校においてコースによってはかなり絞られた科目となっていることが、生徒の大学進学希望に一部沿っていないようにみえることがあるためと思われる。ただし、生徒の実態を見ると現状が最適とも思える。	今後、高校において文系理系も撤廃されたり、より細分化される大学の学部等に沿ったカリキュラムを世間の動向を確認しながら柔軟に対応する必要があると思われる。全教員が、新課程や新学習指導要領についてどこまで理解しているかを把握し、研修などを通じて内容を周知しておく必要があると思われる。
	8 9割を超える形で、高評価をいただいている。課題としては、毎日の時間割変更になると、一部の先生に負担がかかっている状況になっていることと、時間割業務を均等に割り振れていないことである。	年休取得義務による時間割変更がここ数年で大幅に増加していることを踏まえて、変更手続き用紙の形式変更などを通して、経験年数の浅い教員でもミスなく時間割変更ができるよう、改善を進めていくこと。
	9 前年度から+8.4%である。特に大きな変化は見られない。各教科で新課程について取り組んだ結果かと思われる。各教科、しっかり見通しを立てて計画していると考えられる。	一方で、観点別評価についてまだうやむやな状態が続いている。年間の計画を立てる段階で、授業中の生徒の活動の評価や試験における観点のバランス、何をどのように評価していくかの具体についてシラバスにまとめしていくことが必要である。
	10 少し下がってはいるが、高い水準を維持している。但し、公開授業などはマンネリ感も少し感じる。ICTに関する公開授業の全教科で実施したわけではないので、その兼ね合いもあるかと思われる。	ICT研修会については、研究授業の日取りなどの具体的な指示がないまま流れてしまった教科も多かったように思う。次年度は早い段階で研修会や公開授業を行い、先生方全員の授業デザインの改善を進めていくべきである。次年度も同じような取り組みがあるならば、研究授業の参観まで計画的に行えれば良いと思う。『室内授業だけでなく実技や実習においてもiPadをより積極的に活用する』ことに特化した研究授業や報告会も今後増やせればよいと思われる。
	11 前年に比べ上昇している。教員室内でも各教科、教員間での授業に関する話し合いがよく見られる。教科間の風通しが良いのではないだろうか。	教科担当者通しでの話し合いを今後も続けていけばよいと感じる。その一方で、観点別評価についての勉強会や話し合いは蔑ろにされている。今後の学校運営を考えると、特別な時間を割いて、これについて検討しなければならないと思われる。
	12 令和3年度では落ち込んだ数値が、令和2年度の数値以上に上昇した。ただし「よくあてはまる」と回答した人数が「あまりあてはまらない」と回答した人数より3名多いだけで、大きな差はなく、概ね満足というところで留まっている。来年度は「あまりあてはまらない」との回答数が減るように心がける必要がある。	放課後学習のチューターやLPの有効な活用を検討する。放課後の補習なども計画的に実施できるようなシステムも考えていくべきである。

目標2	13	昨年度より高い数値である。年々、タブレットでの教員と生徒間の連絡や指示が行き届きやすくなっていると思われる。	本校の現状を見たときに、Ⅲコースへの学習指導は手厚いが、Ⅱ・Ⅰコースに対しては、やや量的に少ないように思われる。各コースの学力・レベルを考慮するとやむを得ないところもある。しかし、進学校を目指すという目標がある以上、いずれにも勉強をさせるという確固たる姿勢を示す必要がある。
	14	ICTの技術活用と、探究活動の実践が入っているこの項目は、内容はリンクしていない所もあり、数字だけでは見えない部分が多いのではないかと。	ICTと探究活動のついて、共通すべきことは、個々により、判断基準の違いが大きいことである。いずれも、まずは研修会への参加等により、何を持って「ICTの技術活用」、「探究活動」かの共通認識を深めていくことである。
	15	「ややあてはまる」の割合の高さから、まだ工夫の余地があると考えておられる方が多いことが分かる。	各コースにおける意味合いや講習のあり方を今一度、教員間で統一したほうがよい。また、Ⅱコースをボリュームゾーンにするならば、その中で習熟度別にするのも一案である。
目標3	16	毎年安定した数値となっているが、今年度は全員から肯定的に評価をしていただくことができた。また3名だけではあるが、「よくあてはまる」との回答数が「ややあてはまる」との回答数を上回る結果となった。	現状の取り組みがよく評価されているので、今後も継続が求められていると考えてよい。しかしながら、生徒自ら情報収集をすることはまだあまりできていない。進研のデジタルサービスを使う時間を学内でも適切な時期に複数回日常的に設けることも必要である。
	17	肯定評価が98.1%と非常に高く評価されており、評価1(A)が『進路』の項目中で最も多いことから、適切に運営されていると判断してよいと考えられる。	進路説明会は適切に計画・実施されていると考えてよいので、この取り組みを今後も続けていくとよい。また、本校の先生方の多くが他校での経験が豊富なので、他校での取り組みで良かった進路行事を集約し、さらなる改善につなげるとよい。
	18	概ね良好の評価を得ている。ただし、改善の余地はあると考える。	学校全体で行う3者懇談だけではなく、担任と生徒の2者面談も必要かと考える。時間がない中でも効率的に行う方法を検討するべきである。生徒の考えをしっかりと聞く姿勢を教員が持つべきである。
	19	肯定評価で96.2%を占めているので、よく評価されていると考えられる。	外部模試の活用について先生方間で勉強会などを行い、活用についてさらに理解を深めていくことが必要である。模試の結果分析を踏まえて今後の具体的な目標を教員間で共有することを徹底する。
目標4	20	昨年に比べて数値が若干減少している。未然防止教育をしている教員が、していないとみられる教員に対する数値の表れか。	基本的には担任がどれぐらい普段から生徒に様々な話をしているかで決まる。その中で中学校は小規模で、教員間の情報の共有もしやすいが、高校は生徒数も多く指導が大変になっているのではないかと。また、学年によって生徒に特性を持つものがあり、担当する教員の対応力にも違いがあるので、余計に指導が大変だと考えるが、ことあるごとにコミュニケーションを取り粘り強く指導するしかない。それと他学年への理解も必要だ。それぞれ学年なりに努力されているので、その姿勢に対して批判するのではなく、理解し、協力する体制を教員間で持つ必要がある。
	21	昨年に比べて若干減少しているが、生徒数も増加したことで教員間での情報の共有が難しくなったのではないかと考える。	学年全体で情報を共有していなかったり、学年全体で取り組んでいない結果であると考えている。また、情報共有が出来ていても、他人ごととして考えるのではなく、自分も指導をするという感覚がないと組織的に対応できない。まずは、学年主任と生徒指導係とが中心となって、学年全体で取り組む姿勢を構築する必要がある。
	22	昨年度に比べて数値は上がっているが、以前低い結果である。服装規定を守らせる等の数値が上がれば必然的に設問番号22の数値も上がると考える。学校のルールも守れない生徒が社会のルールマナーを守れるはずがない。	設問20と同様に、ことあるごとに担任がどれぐらい普段から様々な話ができるかだ。その上で勿論学校のルールもきちんと守らせる必要があるし、学校と家庭が連携して徹底的に指導していくべきだと考える。
	23	各先生方が服装規定を守らせようとする意識が高まった結果が数値に表れている。しかし、以前低い結果である。全教員が服装・頭髪等の規定について理解していないのか。	常々教員会等で発言しているが、生徒は本校の広告塔であるという意識を全教員が強く持つべきである。全教員が服装や頭髪の規定を理解する必要があると考える。今後生徒数増加の観点からも担任や生徒指導係だけでなく、全教員が共通認識をもち、徹底的に指導する必要がある。
	24	担任の先生が中心となり、事あるごとに、丁寧に保護者連絡を取られている結果だと考える。	今まで通り、保護者とのコミュニケーションを取り、信頼を得る関係作りが重要だ。
	25	大幅に数値が下がっている。毎度同じ生徒が出欠統計にあがってきており、改善しなければならないという意識が本人に足りないことが問題だが、担任、学年がどのような取り組みをされているのが気にかかる。また、学年によっては本当に不登校生や配慮を必要とする生徒を多く抱えている学年と、ただ怠けている生徒を抱えている学年が混在しているので、それを見極める必要がある。	特別な理由なしで遅刻が続く場合は保護者連絡の徹底が必要だ。また、生徒ともしっかりとコミュニケーションを取り、生徒と共に改善策を考える必要がある。そして一番は、怠けていると思われる生徒に対して、きちんと指導する姿勢が担任や学年にあるかだ。出席にすることで、欠席や遅刻をごまかしているように思われているクラスや学年が見受けられるため、自らのクラスや学年で厳しく見極めることが大切だ。
	26	昨年度に比べて数値が下がっている。一部の生徒が欠席、遅刻してもいけると考え、ゲームやSNSで夜更かしをして、基本的な生活習慣が乱れているのかもしれない。挨拶の部分については、風紀委員が朝正面玄関に立ち率先垂範で挨拶運動をしてくれているので、挨拶はできてきたように思う。	教員が率先して生徒に挨拶することが大事だ。基本的な生活習慣の確立については、遅刻問題が解消されれば減少するものと考えている。遅刻してきた生徒に、どれぐらいアプローチできるかにかかっていると考える。

目標4	27	データの数字としては結果的には悪くはないものではあるが、「ややあてはまる」の割合が高い所に、改善すべき点はまだあると感じている方が少なくないことが分かる。実際に「環境美化や清掃への意識の向上は全く見られない」「清掃区域によって指導状況に差がある」といったコメントも寄せられており、また、現状としても不適切な捨て方をしているごみが多く見つまっている。	①1～2ヶ月毎に、美化委員会を開催し、月目標の設定と、クラスへの注意喚起を継続的に行う。 ②定期的にロイロのアンケート機能を利用して「美化アンケート」（仮称）を行い、意識の向上を図る。 ③ごみの分別処理の呼びかけを続ける。 ④日々の清掃が適切に行われたことを確認できる用紙を作成し、監督教員の確認印をもらうようにする。用紙は、美化委員会に提出する。状況が良くない場合には環境美化担当から注意指導を行う。
	28	数値的には改善してるが、前年度と比較し具体的な変更点はなかった。健康観察カードについての意見があり、特にこの1年は時勢の変化に伴い様々な変更があったため、その都度の対応が必要である。また、保健室来室者に対しては保健指導を行ったりしているが、来室者数や対応状況から全体に向けての指導は保健だよりや掲示物での伝達が限界で、十分に保健指導ができていたとは言い難い。	令和5年度5月より新型コロナウイルス感染症の分類が変更されることに伴い、適宜、健康観察カードや感染時の対応など変更をしていく。以前より体育科と検討していた性教育やがん教育を外部講師を招き今年度は実施していきたい。
学校運営	29	A+Bの肯定評価は、85%から82%にやや下がったものの、しっかりと機能していると思われる。	教科や分掌の会議の時間の設定を、時間割の中に組み込んでいき、会議の時間を確保する。
	30	A+Bの肯定評価は、85%から82%にやや下がったものの、教員の相互理解と連携がうまくなされていると思われる。	次年度も、和の精神の実践を促し、挨拶から始まり、自分の意見が言え、また、人の意見も尊重する雰囲気作りをしていく。
	31	A+Bの肯定評価は、96%から94%に少し下がった。生徒募集において、志願者、入学者の減となったことが影響しているものと思われる。	次年度は、より楽しい学校をアピールするような内容の発信を促し、志願者増加につながるホームページにしていきたい。
	32	A+Bの肯定評価は、昨年度とほぼ同じで、教科や分掌での内部の研修や情報共有がうまく機能していると思われる。	次年度も、研修に参加し、そこで手に入れた内容や情報を教科や分掌に還元していくように促していく。
	33	A+Bの肯定評価は、79%から86%へと上昇した。令和4年度は、駿台教育探究セミナーに、のべ18名の教員が参加し、大阪私学の研究会などにも多数参加したことで数値が上がったものと思われる。	次年度も、オンラインでの研修等が増えていくと思われるが、可能な限り参加の機会を増やし、教科や分掌に還元するように促していく。
	34	A+Bの肯定評価は、96%と昨年度と同じくよい結果となった。意識の高揚が図られている。	徐々に実際の訓練ができるようになってきているので、火事や地震が起きた時のことを想定し、真剣に訓練を実施していく。
	35	昨年度より、ややポイントを下げているが、概ね適切に情報の発信ができていると思われる。入試説明会や入試イベントの運営や形式が定着し、入学対策部以外の先生方にも周知が進んだ結果であると思われる。次年度は向上するよう努力したい。	情報の発信に関しては、入試関連の情報だけではなく、四天王寺東高等学校・中学校をより多くの方々知ってもらうために、学校全体で本校をPRする情報を日常から収集しておきたい。入試説明会の会場にいる教員が、軒並み少ないと感じる。校長や生徒会長、各教員がどのような話をしているのか、参加者の雰囲気はどうかなどを直接見ることで生徒募集の現状に関する理解を深めて欲しい。また、入試説明会業務等、今一度、「生徒募集」について再考し、個々の意識を高め、教職員全員が取り組んでいかなければ生徒数増加にはつながらない。受験者が減減少した地区を特に重点的に、中学校・塾の先生方に対して、更に本校の入試について・変更点を伝え、令和6年度は受験生を必ず中・高ともに増やしたい。
	36	概ね良好であると思われる。入試説明会行事直後でのHP更新や、入試に関する一連の手続きがHPで行えるようになってきていることなど、周知が進んだものと思われる。特に「東の日常」においての部活動の発信が増えた。教員間でブログの存在が身近なものになってきていると思われる。	SNSの利用（専門の担当が必要）を考える必要がある。何よりも本校の生徒に対して、あらゆる教育活動の場面において、本校の教育方針に沿って、生徒を育てて行くことが必要。（内部の充実が重要）また、様々な部活動からの発信を増やしていきたい。普段の練習風景であっても、外部に本校を知ってもらうための大きな要素である。「東の日常」をもっと発信していくことが望まれる。
37	A+Bの肯定評価、100%となった。常日頃から注意を促し、各教員も個人情報の大切さを理解し、気を配っていると感じられる。	昨年度も、個人情報の大切さについて注意をする場面が何度かあったが、今後も、常時注意をしていき、意識を徹底したい。	
38	今年度も、学校説明会や入試説明会でたくさんの教員に協力してもらい、職員の意識の高揚が図られたが、A+Bの肯定評価は、85%から82%へと下がった。やはり、志願者や入学生者の減少が影響しているものと思われる。	生徒募集の大切さの意識が職員に浸透してきているが、まだまだ足りない部分もある。たくさんの生徒が来てくれるいい学校にするために、日々のあらゆることに全力で取り組んでいきたい。	

*学校関係者評価委員会からの評価 (委員長へのインタビューでの意見とアンケート結果をまとめた。令和5年3月15日実施)

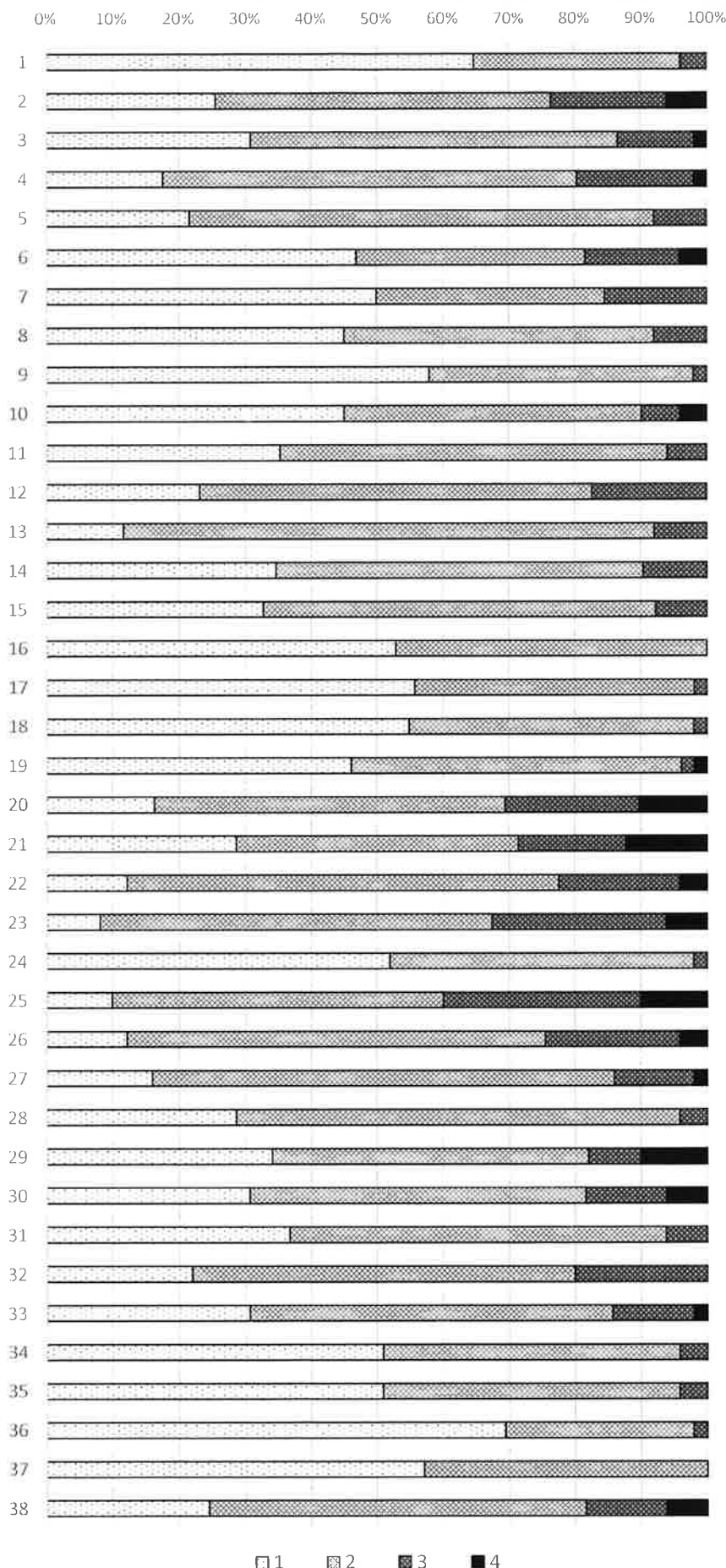
<p>目標 1</p>	<p>①文化祭等のイベントは、生徒は自分たち主体でやりたいと思っている。他の学校はもっと盛り上がっている。私学であるので生徒に任せるのは厳しいと思うが、学校選びの中で、選択肢の1つとなる。部活動は、コロナ禍の影響もあったが、外から見ていて活発に活動しているとは言い難い。やはり、勉強中心の学校なのかと感じる。 ②人権教育といじめに対する取り組みに対して少し評価を落としているのは気になる。この部分は人間形成においても大事な部分のような気がするので改善して頂けたら保護者としても安心できる。 ③仏教教育に力を入れてほしい。 ④人権教育計画・実施について具体的な活動が見えてこない。生徒会活動の活発さも一生徒・保護者に具体的な活動が見えない。他については、具体的につき高い評価だと思う。</p>
<p>目標 2</p>	<p>①学力向上策の評価が過去4年間でかなり上がっているなのでこのまま持続してほしい。 ②12番の学習状況に応じた支援の評価が落ちているのは少し気になる。 ③生徒の数が少ないので先生方の目が行き届いている。生徒たちはコツコツすることを苦に思っていない。教員を外から見ると、ここは、勉強面で厳しい。風紀は言うときは厳しく言っている。 ④学習状況に応じて支援する体制が低いのは、チューターとの放課後学習などコロナによりできていないからだと思う。たくさんの方が中学入学後も塾通いされているのが現状な気がする。</p>
<p>目標 3</p>	<p>①特はない。 ②進路指導に力を入れて頂いているので安心感がある。 ③特になし。現状で良いと思う。</p>
<p>目標 4</p>	<p>①服装と遅刻に対しては、生活指導において大事な部分だと思うので改善して頂きたい。併用期間の通学時の服装の規定が分かりにくい。例えば、セーター、ベストで登校していいのか、併用期間に、ジャケットの下に半袖シャツを切る場合、ネクタイ、リボンはつけないといけないのかなど。 ②風紀面は乱れている。気になる。子供が言っていた。すごい子がいる。注意してないのでは。 ③イベント、風紀、勉強は手厚いフォローをしてくれる。 ④学校の外で生徒を見ると、電車内でのマナーが悪い時がある。未然に防ぐ教育に関しても、保護者に具体的に見えない。何をどう防いでいるのか。</p>
<p>学校 運 営</p>	<p>①ほとんどの項目で数値が改善されているので、引き続きより良い学校運営を期待している。 ②生徒募集に力を入れてほしい。 ③情報発信はできていると思う。さくらもHPも良くなった。高校生ぐらいになると、親は子供には興味があるが、学校には興味がない。やれていると思って指導してもらった方が安心である。 ④HPなど情報発信されているものは目に見えるので評価が高い。職員会議の有効かつ効率的に機能されているのかなどはよくわからない。目に見える活動はよくわかるので評価につながっているように見える。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価				
中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
1 聖徳太子の和のご精神を涵養し 豊かな情操を備えた人間を育成する。	昨年度の自己評価アンケートで評価の低かった「人権教育が適切に計画・実施されている」を重点目標として取り組んでいく。	ア. 年間の予定を立て、それに従いアンケートや人権学習を確実に実施していく。 《中高共通》 ・春秋の2回「心の健康アンケート」実施 ・新入生オリエンテーション（中・高） 《学年別》 ・中1「差別について」 ・中2「障がいについて」 ・中3「平和学習」「震災学習とキャリア教育」 ・高1「LGBT」の理解について ・高2「多文化共生について」 ・高3「就職と人権について」 イ. 必要があるものについては、実施後の報告を必ず行う。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 （肯定評価80%以上）	ア. 年間計画（実施内容と時期が記載）を教員全体に周知し、下記の内容を生徒に実施した。 ・新入生オリエンテーション ・年2回の「心の健康アンケート」 ・学年別の人権教育 前年度までは実施計画は一応あったが、確実な計画通りの実施に問題があった。今年度は、滞りなく計画に沿った人権教育が実施された。 教員自己評価アンケートでは、前年度の68.8%から80.4%の肯定評価となり、評価指標を満たすことができた。ただし、分析と改善のアンケート結果（p.4～）では、実施は計画通り行えたが、内容の充実を求める意見がいくらかあった。この点で2割くらいの教員が肯定評価をつけていないと考えられる。今後は生徒の人権意識を高める内容をさらに検討するべきである。（○）
4 規範意識を高め 調和の取れた人物を育成する。	昨年度のアンケート結果から、肯定評価が最も低い「服装規定を守らせている」を今年度の新たな重点目標とする。	ア. 朝礼時に、生徒の服装も確認し、規定違反があればすぐに直させることを徹底する。 イ. 登下校、及び校舎内で規定違反があれば、その都度すぐに直させることを徹底する。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 （肯定評価80%以上） ・教員取り組みアンケートも参考にする。	ア. この項目の取り組みについてのアンケートでは、担任のうち「できた・ややできた」の肯定の回答が97%であった。 イ. この項目の取り組みについてのアンケート結果は「できた・ややできた」が72%となった。担任・教員の方では注意はしているという結果である。 取り組みアンケートの自由記述の意見では、配慮を要する生徒や、他学年の生徒への注意の難しさ、教員同士の協力体制などについても意見が多く出ていた。 教員の自己評価アンケートの結果は、肯定評価が前年度55.3%から本年度67.3%とやや改善はしたものの評価指標の80%には届かなかった。 自己評価の改善提案にもあるように指導の徹底までは至っていないように思われる。また、学校関係者評価委員会からも「わかりやすいルールの説明と周知」も求められている現状がある。各方面からの問題提起をさらに検討する必要がある。（△）
4 規範意識を高め 調和の取れた人物を育成する。	昨年度のアンケート結果から、肯定評価が最も低い「遅刻・欠席を少なくさせている」を今年度の新たな重点目標とする。	ア. 「時間を守ることの大切さ」をことあるごとに説いていく。 イ. 遅刻者には、遅刻した理由を聞き、生活習慣の見直し等の指導をする。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 （肯定評価80%以上） ・教員取り組みアンケートも参考にする。	ア. この項目の取り組みについてのアンケートでは、担任のうち「できた・ややできた」の肯定の回答が93%であった。 イ. この項目の取り組みについてのアンケート結果は「できた・ややできた」が87%となった。自由記述欄では、問題の一つに家庭の問題もあるという意見もあった。また、学校側でも朝学習などの取り組みも必要という提案もあり、今後の参考になると考えられる。 自己分析の改善提案では、基本的には担任・学年での遅刻に対する取り組みの徹底が必要であると考えている。学年ごとの温度差の違いがあるとも思われる。 教員の自己評価アンケートの結果は、肯定評価が前年度55.3%から本年度67.3%とやや改善はしたものの評価指標の80%には届かなかった。（△）

令和4年度 自己評価アンケート 集計結果

資料①

設問	1	2	3	4
1	33	16	2	0
2	13	26	9	3
3	16	29	6	1
4	9	32	9	1
5	11	36	4	0
6	23	17	7	2
7	26	18	8	0
8	23	24	4	0
9	29	20	1	0
10	23	23	3	2
11	18	30	3	0
12	12	31	9	0
13	6	41	4	0
14	18	29	5	0
15	17	31	4	0
16	27	24	0	0
17	29	22	1	0
18	28	22	1	0
19	24	26	1	1
20	8	26	10	5
21	14	21	8	6
22	6	32	9	2
23	4	29	13	3
24	26	23	1	0
25	5	25	15	5
26	6	31	10	2
27	8	35	6	1
28	14	33	2	0
29	17	24	4	5
30	15	25	6	3
31	18	28	3	0
32	11	29	10	0
33	15	27	6	1
34	25	22	2	0
35	25	22	2	0
36	34	14	1	0
37	28	21	0	0
38	12	28	6	3



*各設問に対しての、1～4の評価をした人数の一覧。

*評価:

- 1 (よくあてはまる)
- 2 (ややあてはまる)
- 3 (あまりあてはまらない)
- 4 (まったくあてはまらない)

□ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

評価1 + 評価2の推移 と 過去年度との比較

資料②

表①は 1 + 2 (%表示) になります。

表②は 前年度からの増減% になります。

①

設問	R1	R2	R3	R4	R5
1	84.6	88.4	89.1	96.1	
2	71.7	69.8	76.6	76.5	
3	69.2	90.7	87.2	86.5	
4	46.1	72.1	68.8	80.4	
5	74.3	79.1	83.0	92.2	
6	84.6	81.4	87.2	81.6	
7	69.2	86.0	95.7	84.6	
8	76.9	93.0	89.4	92.2	
9	84.6	95.3	89.6	98.0	
10	48.8	67.4	91.5	90.2	
11	71.8	88.4	91.7	94.1	
12	71.7	79.1	72.3	82.7	
13	48.7	76.7	83.0	92.2	
14	92.4	83.7	91.7	90.4	
15	64.1	74.4	83.0	92.3	
16	84.6	93.0	97.9	100.0	
17	84.6	97.7	97.9	98.1	
18	94.8	97.7	93.6	98.0	
19	89.5	95.3	93.8	96.2	
20	64.1	65.1	72.3	69.4	
21	64.1	74.4	80.9	71.4	
22	66.7	67.4	76.6	77.6	
23	64.1	62.8	55.3	67.3	
24	92.4	97.7	95.7	98.0	
25	61.6	65.1	68.8	60.0	
26	56.4	74.4	87.2	75.5	
27	74.3	65.1	83.0	86.0	
28	74.3	90.7	89.4	95.9	
29	76.9	74.4	84.8	82.0	
30	66.7	67.4	85.1	81.6	
31	76.9	93.0	95.8	93.9	
32	51.3	58.1	80.9	80.0	
33	56.4	74.4	79.2	85.7	
34	89.7	88.4	95.7	95.9	
35	97.5	93.0	97.9	95.9	
36	94.8	95.3	95.7	98.0	
37	92.3	95.3	97.9	100.0	
38	74.4	81.4	85.4	81.6	

②

設問	R2-R1	R3-R2	R4-R3	R5-R4
1	3.8	0.7	7.0	
2	-1.9	6.8	-0.1	
3	21.5	-3.5	-0.7	
4	26.0	-3.3	11.6	
5	4.8	3.9	9.2	
6	-3.2	5.8	-5.6	
7	16.8	9.7	-11.1	
8	16.1	-3.6	2.8	
9	10.7	-5.7	8.4	
10	18.6	24.1	-1.3	
11	16.6	3.3	2.4	
12	7.4	-6.8	10.4	
13	28.0	6.3	9.2	
14	-8.7	8.0	-1.3	
15	10.3	8.6	9.3	
16	8.4	4.9	2.1	
17	13.1	0.2	0.2	
18	2.9	-4.1	4.4	
19	5.8	-1.5	2.4	
20	1.0	7.2	-2.9	
21	10.3	6.5	-9.5	
22	0.7	9.2	1.0	
23	-1.3	-7.5	12.0	
24	5.3	-2.0	2.3	
25	3.5	3.7	-8.8	
26	18.0	12.8	-11.7	
27	-9.2	17.9	3.0	
28	16.4	-1.3	6.5	
29	-2.5	10.4	-2.8	
30	0.7	17.7	-3.5	
31	16.1	2.8	-1.9	
32	6.8	22.8	-0.9	
33	18.0	4.8	6.5	
34	-1.3	7.3	0.2	
35	-4.5	4.9	-2.0	
36	0.5	0.4	2.3	
37	3.0	2.6	2.1	
38	7.0	4.0	-3.8	

平均	73.9	81.4	86.1	87.3	#DIV/0!
----	------	------	------	------	---------

平均	7.5	4.7	1.2	#DIV/0!
----	-----	-----	-----	---------

設問内容は別紙を11ページを参照してください。

資料③

表の見方	
数字	表示は
1+2	で70%未満

を表します。
改善の余地がある項目になります。

番号	設問	評価1 + 評価2	
		%表示	
		令和4年度	令和3年度
目標1	1 校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	96.1	89.1
	2 生徒会活動が活発に行われている	76.5	76.6
	3 部活動が活発に行われている	86.5	87.2
	4 人権教育が適切に計画・実施されている	80.4	68.8
	5 いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている	92.2	83.0
	6 仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	81.6	87.2
目標2	7 教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	84.6	95.7
	8 効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	92.2	89.4
	9 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	98.0	89.6
	10 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	90.2	91.5
	11 教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	94.1	91.7
	12 学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	82.7	72.3
	13 家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている	92.2	83.0
	14 授業で、探究活動を実践したり、ICT(情報通信技術)を活用している	90.4	91.7
	15 クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	92.3	83.0
目標3	16 生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	100.0	97.9
	17 進路説明会は、適切に計画・実施されている	98.1	97.9
	18 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	98.0	93.6
	19 実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	96.2	93.8
目標4	20 校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	69.4	72.3
	21 生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	71.4	80.9
	22 社会のルールマナーを順守させている	77.6	76.6
	23 服装規定を守らせている	67.3	55.3
	24 生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	98.0	95.7
	25 遅刻・欠席を少なくさせている	60.0	68.8
	26 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	75.5	87.2
	27 環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	86.0	83.0
	28 年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	95.9	89.4
学校運営	29 職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	82.0	84.8
	30 教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	81.6	85.1
	31 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	93.9	95.8
	32 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	80.0	80.9
	33 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	85.7	79.2
	34 防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	95.9	95.7
	35 入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	95.9	97.9
	36 ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	98.0	95.7
	37 個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	100.0	97.9
	38 職員の生徒募集の意識高揚が図られている	81.6	85.4

令和4年度 学校評価

令和5年 7 月 1 日発行

発行責任者 学校法人 四天王寺学園
四天王寺東高等学校
四天王寺東中学校
校長 柏井 誠一

監 修 教 頭 森 隆

編 集 学校評価検討委員会
委員長 近藤 哲也
委 員 中山 栄治 浮邊 浩一郎
矢野 元和